



日本物理学会のこの1年 — 動き始めた支援策を生かすために —

2005年度は、2つの基本計画(科学技術基本計画第3期, 男女共同参画基本計画第2期)が策定され、日本学術会議の構造改革が行われ、今後5年間の我が国の科学技術、男女共同参画の方向を決定づける節目の年であった。

各段階で公表された基本計画案を精査し、男女共同参画学協会連絡会との連携で、本委員会独自に、あるいは委員個人で、要望書送付や意見表明を積極的に行った。データや行動に裏付けられた要望や意見表明が、完全ではないまでも大半が基本計画に反映され、文部科学省の女性研究技術者育成・支援に関する概算要求につながったことは、それまで科学技術行政になじみの薄かった多くの女性研究者にとっては、異文化体験であったといっても良い。

日本物理学会男女共同参画推進委員会では、12名の委員(男女同数)と、24名のネットコメンテータ(男性14名, 女性10名)が主題別に7つのサブグループ(SG)に分かれて、「動き始めた政府の女性研究者育成および支援策を生そう!」を課題に、以下の活動を展開した。

SG構成: [1]ネット会議活性化, [2]若手女性支援策, [3]学生・高校生への情報発信, [4]広報・学会誌への宣伝, [5]アンケート等統計調査, [6]学協会連絡会運営委員, [7]年会シンポジウム担当。

1. 年次大会シンポジウム「動き始めたキャリア形成支援策をどう生かすか」: (2006年3月28日, 愛媛大学). 年会シンポジウム担当SG: 笹尾真実子, 福山秀敏, 鳥養映子. 平成18年度から、「女性研究者支援モデル育成プログラム」(科技機構), 育児による研究中断からの復帰支援特別研究員(学振), 女子高校生の進路選択に関する情報提供(基盤政策課)等の新事業が始まった。これらの支援制度を有効に活用するために、河村潤子(文科省), 塩満典子(内閣府), 伊賀健一(学振), 奈良坂智(科技機構)の各氏から、政策の背景, 哲学, 具体的内容を伺い、本委員会から菅本晶夫(お茶の水大), 田島節子(阪大)が大学, 学会の取組みを紹介した。パネル討論では会場からの質問に答えて「2つの基本計画に明記された数値目標の意義」, 「育児支援, 復帰支援策の充実」, 「大学にまだ残る女子学生差別の現実をどう改善するか」について討論を行った。

2. 「日本学術振興会復帰支援フェロシップ RPD 応募サポート」制度を発足: 若手女性支援策SG 田島節子, 延與秀人, 菅本晶夫他委員, 会員 ML および日本物理学会会誌にて広報. 相談件数 4件。

3. 女子高校生の理工系進学促進事業「平成18年度女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～」(2006年8月17-19日, 国立女性教育会館). 文科省の委託事業(主催). 学生・高校生への情報発信SG. 実験・実習: 「来た、見た、わかった!～携帯電話の電波から宇宙線へ～」を日本原子力学会と共同企画. 担当: 初田真知子, 肥山詠美子, 谷田聖, 大平聖子, 俵裕子, 馬場彩, 吉田晃, 岡田往子(原子力学会), ポスターセッション・キャリア相談: 「超伝導を体験しよう!」山本文子, 田島, 「カミオカンデとニュートリノ物理」横山広美, 初田, 「物理を学ぶと、どんな進路があるの?」浅川理恵, 肥山, 企画運営: 鳥養, 初田, 協力: 黒田真一郎, 伊藤厚子, 渋谷寛, 増淵哲夫, 高木英典, 松野丈夫, 高エネルギー加速器研究機構から、貴重な展示品(スパークチェンバ, 光電子増倍管)をご貸与いただいた。物理の実験・実習に20名(111名中)もの希望参加があった。高校生の自主性と深い関心をどう惹き起こすかと、議論と予備実験を繰り返して準備した担当者にとって望外の喜びであった。

その他の支援活動 福井県女子高校生のための「科学・技術者への招待」セミナー: 潮田資勝, 伊藤。

4. 男女共同参画学協会連絡会第4回シンポジウムWG: 運営委員 田口善弘. 分科会A「女性研究者支援, 有効な支援をめざして」を日本金属学会と共同でコーディネート。

5. 内閣府チャレンジキャンペーン共催事業「ウェブ研究者・学生からのメッセージ, Q&A開設」: 広報SG: 延與秀人, 村尾美緒, 平野琢也, 潮田, 笹尾。

6. 国際協力の推進: 韓国物理学会男女共同参画推進委員長の呼びかけに協力して, Asian Women in Physics のネットワーク作りに取り組んだ。International Workshop on Asian Women in Physics, (Nov. 23-25, 2006, Pohang, Korea) 基調講演: 鳥養 “Actions to Promote Gender Equality in Physics in Japan: the better society for both men and women”, ポスター発表: 堀井香奈子 “Summer School for High School Girls Students ~ for the Scientists and Engineers Tomorrow”, 参加者約40名。Association of Asia Pacific Physics Societies (AAPPS)への提言を採択し, 同理事会に送付。5月理事会で正式にWG発足。

7. 委員会専用ページ過去ログの開設: ネット会議活性化SG 田口善弘, 安居院あかね 試験運用してきた Web Forum を廃止し, 過去ログを採用した。

8. ポストク問題検討委員会の分離発足: 坂東昌子, 平田光司, 鳥養他。本委員会の主要課題として取り組んできたが, 広い観点から検討を進めるため独立の委員会を設置した。(文責鳥養)